

学生及び保護者のみなさま

令和6年度決算について

国立大学法人鹿児島大学の令和6事業年度財務諸表が令和7年8月29日付けで文部科学大臣から承認を受けました。

国立大学法人は、国から負託された業務の実施に関して財務情報に基づく財政状態や運営状況に関する説明責任を果たすため、財務諸表を作成し公表することとされています。

財務諸表は、企業会計原則に基づきながら国立大学法人の主たる業務が教育研究であること、授業料等の学生納付金や附属病院収入等の業務特性があること等に配慮し固有の会計処理を定めた「国立大学法人会計基準」等に従い作成しております。国立大学法人会計基準の概要等については、別紙で「財務のミカタ」でわかりやすく取りまとめておりますので併せてご確認いただければと思います。

また「財務諸表の概説」では財務情報に加え、令和6年度成果・実績等の非財務情報についても記載し、本学の状況をより分かりやすく表記するものとなっております。

本学の令和6年度末における財政状態は、貸借対照表にありますように資産が1,569億円、負債が586億円、純資産が983億円となっております。また、本学の令和6年度における運営状況は、損益計算書にありますように経常収益が559億円、経常費用が558億円となり、臨時利益及び臨時損失を含めると▲6.75億円の当期総損失となります。損失の主な要因は、病院再開発に伴う旧医科診療棟の廃止決定による減損損失を計上したことによるものです。なお、当期総損失分は過年度に計上した利益剰余金（積立金）で埋め合わせる処理を行います。

本学を取り巻く財務状況は、法人化以降の運営費交付金の削減など大変厳しく、効果的かつ合理的な大学運営が強く求められております。

このような状況を踏まえ、本学は業務の効率化等による経費節減や自己収入等の増加を図るなど、より一層の財政基盤の強化を進めていくとともに、教育・研究・診療・社会貢献活動等の更なる充実・向上に努めて参ります。

今後とも皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国立大学法人鹿児島大学

理事（財務・施設担当） 藤澤 亘

鹿児島大学の年次決算について、従前から、大学ホームページ上や官報公告で財務諸表を公表しておりましたが、昨今、学生・保護者・卒業生・地域住民・産業界等の各ステークホルダーに対して、より積極的な情報開示を求められていることを踏まえ、令和元年度決算分より、年次決算の概要を情報開示しており、財務情報の詳細についてはホームページ（<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/zaimu.html>）をご確認ください。

【参考資料（ホームページ掲載）】

「財務諸表の概説」

令和6年度成果・実績等の非財務情報や他大学の比較等により本学の状況をわかりやすく表記しております。

「財務のミカタ」

国立大学法人会計基準の概要等を取りまとめています。



令和6年度 国立大学法人鹿児島大学 年次決算（概要）



貸借対照表

【期末時点の財政状態】

資産	負債
156,936 (▲310)	58,612 (+1,561)
	純資産
	98,324 (▲1,872)
(内数)	
当期末処理損失 ▲675	

損益計算書

【一事業年度の運営状況】

経常費用	経常収益
55,965 (+3,035)	55,878 (+49)
	臨時利益 0(▲449)
	繰越積立金取崩等 415(+378)
臨時損失 1,004 (+303)	当期総損失 ▲675 (▲3,361)

決算報告書

【国の会計制度に準拠】

収入	支出
61,052	60,221
	収支差 831

(内訳)	
外部資金収支差	▲ 78
翌年度繰越等	368
減価償却引当特定資産	126
目的積立金申請	415

損失の処理に関する書類

【未処理損失の処理内容】

損失処理額	▲675
(内訳) 積立金	675

- ※ 単位は百万円です（カッコ内は前年度増減）。
- ※ 単位未満の端数処理の関係上、合計額等が合わない場合があります。

■主な変動の要因

令和6年度は病院再開発による外来診療棟・病棟（A棟）が稼働し、移転後の旧医科診療棟等の取り壊しが決定し、当該建物等の資産価値を減少させ減損損失を計上したことにより、当期総損失を計上しております。

【資産】

- ・A棟稼働に伴う設備整備等による工具器具備品等の増加（+3,328百万円）
- ・A棟稼働による旧医科診療棟等取り壊しが決定し減損損失を計上したことにより建物等の減少（▲1,726百万円）
- ・目的積立金の取崩により現金及び預金の減少（▲2,272百万円）

【負債】

- ・病院A棟稼働に伴うリース資産の新規取得により、リース債務（元本）が増加（+2,308百万円）
- ・寄附された投資有価証券の時価評価額の減により負債（長期寄附金債務）の減少（▲1,387百万円）

【経常費用】

- ・診療報酬稼働額増加に伴う医薬品費等の増加及び光熱水費の高騰等による診療経費増加（+925百万円）
- ・人事院勧告の影響や病院A棟稼働に伴う職員増員による人件費増加（+1,473百万円）

【経常収益】

- ・前年度予算措置されたA棟ネットワークシステムによる運営費交付金収益の減少（▲308百万円）
- ・A棟移転に際して、安全性を考慮した結果、稼働率が抑えられたことにより附属病院収益の減少（▲56百万円）
- ・外部資金等の獲得により受託研究等収益、寄附金収益が増加（+457百万円）

【臨時損失】

- ・A棟稼働による旧医科診療棟等の取り壊しが決定し減損損失を計上
- ・教育学部附属特別支援学校、化学生命工学科棟等の改修及び感染制御研究施設等の新営に伴う撤去費等

【臨時利益】

- ・前年度に過年度会計処理（資本剰余金等）の修正等を行ったことによる減少

【損益等】

- ・当期総損失 ▲675百万円（▲3,361百万円）

担当：鹿児島大学財務部財務課決算係

電話番号：099-285-7135

mail：kessan@kuas.kagoshima-u.ac.jp